

# 図書館の窓から

浜田高校図書館  
H30.12.21 発行  
30-9号



「忙しく時計の動く師走哉」これは正岡子規の句です。ああ、よく分かるなあ…とは言えもちろん、時計は年中同じ速度で動いているはず。忙しく動いているのは私たちのほう、ですよ。ただ、自分の高校時代を思い出すと、12月は期末試験終了後の解放感もあり、けっこうゆったりとした心持ちで過ごし、一足早く冬休み気分を味わっていたような気がします(ただし1・2年次に限る)。時計の動く速度は、各々の過ごし方次第で変わるのかも知れません。冬休みには本を片手に、ほんのひととき時間がたつのを忘れてみませんか？



## 冬休み中の図書館利用について

### ◆開館日 & 開館時間

月	火	水	木	金	土	日	
12/24	12/25	12/26	12/27	12/28	12/29	12/30	
振替休日	← 開館時間 朝 8:15～夕方 17:00 →				← 休館 →		
12/31	1/1	1/2	1/3	1/4	1/5	1/6	
←			休館				→
1/7	1/8	1/9	1/10	1/11	1/12	1/13	
休館	始業式	← 通常どおり開館 →			← 休館 →		

◆12/10～12/26 の間に借りた本の返却日は、1/8 (始業式の日) です。

◆上記期間中の貸出冊数の上限は 10 冊! 通常の2倍です!!

第2回雑誌プレゼント企画が終了しました。  
37名に、68点の雑誌&付録をプレゼントしました。  
たくさんのご応募ありがとうございました。

今回惜しくもプレゼントがもらえなかった皆さん、  
次のチャンスは来年の6月です!

次回は今年の下半期に刊行された雑誌をプレゼントしますので  
ふるってご応募ください。



## 今年はどんな本が話題になった？

雑誌『ダ・ヴィンチ』1月号の特集、「BOOK OF THE YEAR 2018」の「小説ランキング50」に選ばれた本のうち、浜高図書館にあるものを紹介します。  
また「小説ランキング」の他、「文庫ランキング」「エッセイランキング」等にも選ばれた本も併せて、雑誌コーナーの近くのテーブルに展示してあります。冬休みのお供にどうぞ。

ちなみに私のオススメは、「文庫ランキング」にランクインした『サラバ!』(西加奈子/著、小学館文庫)です。上・中・下巻の長編小説の中で、主人公の子ども時代から30代になるまでを描いているのですが、上巻を読んでいる最中に「いつまでもこの物語を読んでいた、終わりが来なければいいのに…」と思ったことを覚えています。

で、結局どんな話なの?と思われた方もいるでしょう。これがなかなか、説明が難しいのです。激動の人生を描いているようでもあり、ごくありふれた人生の物語のようでもあり…。でも主人公や、主人公とはまったくタイプの異なる姉の生き様に、誰もが少しずつ共感できるのではないかと思います。読むことで主人公の人生を追体験してみてください。かなりの長編なので、お時間のあるときにぜひ。

- ・『下町ロケット 3 ゴースト』池井戸潤/著、小学館
- ・『ファーストラヴ』島本理生/著、文藝春秋
- ・『未来』湊かなえ/著、双葉社
- ・『そして、バトンは渡された』瀬尾まいこ/著、文藝春秋
- ・『魔力の胎動』東野圭吾/著、KADOKAWA
- ・『屍人荘の殺人』今村昌弘/著、東京創元社
- ・『オリジン 上・下』ダン・ブラウン/著、KADOKAWA
- ・『たゆたえども沈まず』原田マハ/著、幻冬舎
- ・『彼方の友へ』伊吹有喜/著、実業之日本社
- ・『おまじない』西加奈子/著、筑摩書房



ランクインした本のうち  
浜高図書館にないものを  
読みたい人は、  
リクエストしてください。  
もちろん、その他の本の  
リクエストも  
お待ちしております!

- ・『青くて痛くて脆い』住野よる/著、KADOKAWA
- ・『おらおらでひとりいぐも』若竹千佐子/著、河出書房新社
- ・『烏百花 蛍の章 (八咫鳥外伝)』阿部智里/著、文藝春秋
- ・『万引き家族』是枝裕和/著、宝島社
- ・『ブロードキャスト』湊かなえ/著、KADOKAWA
- ・『噛みあわない会話と、ある過去について』辻村深月/著、講談社
- ・『さざなみのよる』木皿泉/著、河出書房新社
- ・『チュベローズで待ってる』加藤シゲアキ/著、扶桑社
- ・『ふたご』藤崎彩織/著、文藝春秋
- ・『星をつなぐ手 桜風堂ものがたり』村山早紀/著、PHP 研究所







#### 【進路に関する本】

498『救急救命士になるには』益田美樹/著

498『義肢装具士の日』WILL こども知育研究所/編著

031『現代用語の基礎知識 2019』自由国民社/編集

304『文藝春秋オピニオン 2019年の論点 100』

#### 【島根に関する本】

095.6『石見銀山学ことはじめ』大田市教育委員会/編

096『ビレッジプライド「0円起業」の町をつくった公務員の物語』

寺本英仁/著

★<A級グルメ>の仕掛人として、地産地消レストランや食の学校等を手掛ける邑南町のスーパー公務員が、自らの体験を語る。

097『しまねの文化財』島根県文化財愛護協会/編集

★絵画や彫刻、史跡、天然記念物など、県内の国宝や県指定の文化財を紹介。

#### 【歴史】

♪204『ホモ・デウス 上・下』

ユヴァル・ノア・ハラリ/著

★人類は不死と幸福、神性を目指し、神のヒト「ホモ・デウス」へと自らをアップグレードする。そのとき、富む者と貧しい者との格差は、創造を絶するものとなる…。人類の未来は、一体どうなる。

♪210.1『日本国紀』百田尚樹/著

★神話とともに誕生し、万世一系の天皇を中心に、独自の発展を遂げてきた日本。2000年以上にわたる国民の歴史と激動にみちた国家の変遷を、「古事記」「日本書紀」をはじめ、多くの史書を参考に記した壮なる叙事詩。

217『広島県の歴史 第2版』

岸田裕之/編

★芸備の自然と地域の形成、戦争と平和の時代…。古代から現代まで、地域で活躍した人物や歴史上の重要事件を県民の視点で平易に叙述する。広島県の歴史を凝縮した通史。

#### 【紀行】

♪292『インドなんて二度と行くか!ボケ!! …でもまた行きたいかも』

さくら剛/著

★引きこもりの著者が、ニートの現状を憂い一念発起してインドへ出発。1ヶ月の間に出会った人々や騙された思い出など、トラブルだらけの道中を、笑いを誘う文章とたくさんの写真で振り返る旅行記。

297『極夜行』角幡唯介/著

★太陽が昇らない冬の北極を、一頭の犬とともに命懸けで体感した探検家がつづる冒険ノンフィクション。

#### 【政治】

311『未来をはじめ「人と一緒にいること」の政治学』宇野重規/著

★友だち同士から国際社会まで互いに異なる人たちが、共に暮らしていくには。変わりゆく世界の中で、政治の根本を考える。

#### 【経済】

333『知っていますか?SDGs』日本ユニセフ協会/制作協力

★世界の未来を変える17の目標“SDGs”の入門書。ユニセフの活動をもとにして、SDGsのテーマごとに、世界中の子どもたちに起こっていること、課題や人びとの取り組みなどを、豊富な写真とともに紹介。

#### 【社会学】

361『くらべる世界』おかべたかし/文山出高士/写真

★「朝ごはん」や「カレンダー」「ネクタイ」など33項目を取り上げ、「日本とアメリカ」「イギリスとフランス」といった2カ国間での違いを写真でくらべて解説。

#### 【労働】

366『働き方改革のすべて』

岡崎淳一/著

★いよいよ「働き方改革」がスタートする。働く人の何が変わるか、企業に必要な対応は何か。働き方改革実現推進室で実務を担った著者が、改革のねらい、内容を徹底解説する。

366『「働き方改革」の嘘』久原穂/著

★なぜ厚労省ではなく、経産省主導で進んだのか? 「高プロ」にこだわる理由とは? 雇用システムを流動化させようとするねらいは? 「働き方改革」の問題点をまとめるとともに、その実像を明らかにする。

369『自衛隊防災 BOOK』マガジンハウス/編集

★人命救助、食料の確保や給水、緊急措置…。危機管理のプロ・自衛隊に伝わる、災害時のトラブルに対処するノウハウを、多数の写真でわかりやすく紹介する。日常生活に役立つテクニックも満載。

#### 【教育】

375『ブラック校則』荻上千キ・内田良/編著

★生まれつきの髪を黒く染めさせられる、

体操着の内側に下着着用禁止…。「ブラック校則」の現状をデータや事例をもとに解説し、その構造や悪影響を分析。校則をどう変えるべきかを論じる。

375『ブラック部活動』内田良/著

★部活動問題の第一人者が、ブラック部活動の実情を描くとともに、部活動のあり方を整理する4つの基礎的な視座をあげ、改善に向けた提案を展開する。

#### 【数学】

410『数学ガールの秘密ノート 行列が描くもの』結城浩/著

★零行列から単位行列、行列の演算、行列式、線型変換まで、「僕」と4人の少女が、楽しい数学トークを繰り返しながら、行列と線型性の謎を解き明かす。

#### 【化学】

431『元素周期表パーフェクトガイド』元素周期表パーフェクトガイド編集チーム/編集

★元素の正体や、周期表を読み解くポイント、人類が元素と歩んだ歴史などを解説。ニホニウムなど2016年に正式決定した4つの新元素も収録した元素周期表付き。

436『いのちと重金属』渡邊泉/著

★鉄、鉛、水銀、亜鉛、ヒ素、レアメタル…。人類が魅せられたキケンな存在「重金属」。宇宙や生命の誕生から、公害や科学技術までを取り上げ、人類と重金属の関わりを考察する。

#### 【地学】

📧450『地学ノススメ』鎌田浩毅/著

★何枚ものプレートが接する日本列島に住んでいる日本人。地球の構造から巨大地震・巨大噴火の可能性まで、日本人に必須の知識をわかりやすく解説。

#### 【動物】

488『トリノトリビア』川上和人/監修

★スズメはほおの斑点が大きいほどモテる。ハトはちゅうちゅう水を飲む。カラスは巣に新材を使う…。身近だけれどつい見過ごしがちな野鳥たちの驚きの生態を、4コマ漫画とともに楽しく、わかりやすく解説する。

#### 【医療】

📧490『看護婦が見つめた人間が病むということ』宮子あずさ/著

★傷ついた人だけが持つやさしさ、人は忘れるから生きられるなどをテーマに、内科病棟、精神科病棟の看護婦が、生老病死の現場から、体を病むこと、心を病むことの意味をあたたく問いかける。

498『わたしで最後にして ナチスの障害者虐殺と優生思想』藤井克徳/著

★「強い人だけが残り、劣る人や弱い人はいなくてもいい」という優生思想の恐ろしさを史実をもとに説明し、優生思想に向き合う上での大切な事柄を紹介。

#### 【被服】

593『シャツ&ブラウスの基本パターン集』野木陽子/著

★面倒な製図をしなくても、自由に組み合わせるだけ。自分だけのオリジナルのシャツ&ブラウスを楽しみたい人のために、パターンごとに展開したパターンを紹介。

#### 【庭園】

📧629『世界の美しい公園』バイインターナショナル/編著

★イギリスの伝統的な王立公園、カナダの雄大な国立公園、タイの神秘的な歴史公園など、世界各国の個性豊かで美しい公園87箇所を写真で紹介。

#### 【商業】

674『毎日読みたい 365日の広告コピー』WRITES PUBLISHING/編

★「オトナになれ」といういくつかの夏を経て、「コドモに帰れ」という夏が待っている。365日、その日その季節にぴったりの「広告コピー」を並べた名言集。

#### 【芸術】

721『もっと知りたい葛飾北斎』永田生慈/監修

★90歳で没するまで、常に作画への執念を燃やしつづけ、多彩な作域を示した葛飾北斎の人生を年代順に紹介し、その素顔と作品の魅力に迫る。

#### 【写真集】

📧748『Dear deer 鹿たちの楽園』佐藤和斗/著

★鹿たちの楽園・奈良公園で、新しい命の誕生から一年を通して繰り返される鹿たちのドラマを写真で追う。

#### 【陶芸】

📧751『図解日本のやきもの』伊藤嘉章/監修

★様式・技法・名称など、日本のやきもの基本知識をズバリ解説。日本美術の大きな見取り図が頭に入る一冊。

#### 【スポーツ】

783.7『甲子園を目指せ!進学校野球部の奮闘の軌跡』タイムリー編集部/編

★進学校にも関わらず、甲子園を目指すほど強い野球部の生徒はどんな時間割を過ごし、監督はどんな指導をしているのか。仙台第二高校、金沢高校など6校を取り上げる。

#### 【文学】

902『I Love Youの訳し方』望月竜馬/著

★「I Love You」の一文を、あなたならどう表現しますか? 「愛しています」の一言では言い表せない気持ちを、名作家たちはどう表現してきたのか。100通りの愛の表現を探る。

#### 【日本の小説】

913『アリバイ崩し承ります』大山誠一郎/著

★時計にまつわる依頼は何でも受けるといふ美谷時計店。難事件を抱える捜査一課の新米刑事は、アリバイ崩しを依頼する。店主の時乃は、謎を解き明かせるのか?

913『青少年のための小説入門』久保寺健彦/著

★いじめられっ子の中学生・一真は、ヤンキーの登に「小説の朗読をしてくれ」と頼まれる。ディスレクシアで読み書きができない登だが、名作小説とともに読むうちに、ふたりは本の面白さに熱狂しはじめ…。

913『映画化決定』友井羊/著

★放課後の教室でナオトが落とした一冊のノートを持ったのは、同級生の天才映画監督・ハル。彼女はそこに書かれたマンガのネームを見て、言った。「これをわたしに撮らせてほしい」と…。

♪913『オーバーロード 1~13』丸山くがね/著

★サービス終了時間をすぎてもログアウトしないゲーム。現実世界ではゲーム好きの孤独でさえない青年が、ギルドごと異世界に飛ばされ、骸骨の見た目を持つ最強の大魔法使い「モモンガ」となる。

・・・シリーズ続編入りしました・・・

913『ラストラン (ランナー4)』あさのあつこ/著

📧913『よろず占い処陰陽屋秋の狐まつり』天野頌子/著

📧913『みつばの郵便屋さん 5』小野寺史宜/著

913『確率捜査官御子柴岳人 3』神永学/著

📧913『怪盗探偵山猫 5』神永学/著

913.7『もし文豪たちがカップ焼きそばの作り方を書いたら青のり MAX』神田桂一/ほか著